

むつ小川原開発関連海域温排水等影響調査

(要 約)

植木 龍夫・永峰 文洋・相馬 光博・苫米地昭一(むつ地方水産業改良普及所)

I 潮間帯生物調査

調査方法

- 1) 調査年月日：昭和53年7月20～21日、昭和53年11月29日の2回。
- 2) 調査地点：上北郡六ヶ所村出戸前浜から三沢市天ヶ森前浜までの8地点のうち、1回目は7地点、2回目は5地点。
- 3) 採集方法：干潮時に方形鉄枠を砂面に打込んでその内側の砂を採集し持帰った。ホルマリン固定後、篩で篩分け、出現生物毎に計数、秤量した。

調査結果

2回の調査でシキシマフクロアミ・ヒメスナホリムシ・ハマトビムシ類・ハマダンゴムシ・多毛類・端脚類の6種類の生物が見られた。このうちシキシマフクロアミとヒメスナホリムシの2種類は2回の調査とも見られ、出現個体数も多かった。

II 底生生物調査

調査方法

- 1) 調査年月日：昭和53年7月30日、昭和53年12月13日の2回。
- 2) 調査地点：上北郡六ヶ所村新納屋前浜を基点として南北に3km以内、沖合へ2km以内の52点、2回目では南側32点を実施。
- 3) 採集方法：スキューバ潜水によりすくいとり型採集器にナイロンネットをかぶせて定量採集した。採集物はホルマリン固定した後持帰り測定に供した。

調査結果

1) 第1回調査

第1回調査で得られた底生生物は61種、2103個体に及んだ。動物群別に見ると棘皮動物41.3%、環形動物28.9%、節足動物21.4%等となっていた。単一種ではハスノハカシパンが40.1%で最も多かった。

2) 第2回調査

第2回調査で得られた底生生物は48種、1691個体に及んだ。動物群別に見ると環形動物が40.4%、棘皮動物29.3%、節足動物26.4%となっていた。単一種ではハスノハカシパンが27.2%で最も多かった。

詳細は「昭和53年度 むつ小川原開発関連海域温排水等影響調査報告書 昭和53年3月 青森県」を参照されたい。